

領域開拓プログラム(研究テーマ公募型研究テーマ)

◆課題:「パンデミックなど世界規模の災禍への人間社会の対応と課題」

◆研究テーマ:「グローバルな視座から見た原子力災害後のコミュニケーションに関する総合的研究」

研究期間:R2.10~R5.3

委託費総額:14,621千円

<研究代表者>

関谷直也:東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター/准教授



<専門分野>

災害情報論、社会心理学

<Webページ>

<http://disaster-info.jp/>

<研究計画の特徴>

農林水産業など地域産業復興に関するコミュニケーション、避難者対応や廃炉に関するコミュニケーション(避難者対応、処理水、除染、中間貯蔵など)について、国内アンケート調査、国際比較アンケート調査、ヒアリング調査を実施し、その課題を総体的に抽出する。

<研究目的・概要>

放射性物質の汚染、感染症拡大状況などは不可視的な現象であるため、人々の安全に対する価値観や「情報」「コミュニケーション」により、大きく左右される。科学コミュニティや報道への不信感は増大し、行政、住民、ステークホルダー同士のコミュニケーションは混乱を極めた。

本研究は「原子力事故」、その後の長期にわたる「原子力災害」におけるコミュニケーション(農林水産業など地域産業復興におけるコミュニケーション、避難者対応などの社会政策におけるコミュニケーションなど)、実証調査により、今後あるべき方向性を検討する。

本研究成果は出版物としてまとめる。政府・県・基礎自治体の施策立案、報道などを通じた情報発信活動、論文・書籍など、参画者個々の研究活動を通して社会に還元する。

危機対応、原子力災害の課題を抽出し、コミュニケーションの実態を明らかにすることで、復興に貢献する

<目標とする研究成果>

危機時のコミュニケーション上の課題を抽出し、原因や経緯を明確化する

- ・東京電力福島第一原子力発電所事故に由来する放射性物質への不安感、および新型コロナウイルスへの不安感の増大・減少および差別意識生成過程の解明
- ・「情報」「コミュニケーション」の問題、行政や情報発信者への不信形成の要因、不安感
- ・地域による知識差・意識差の生成過程、合意形成の課題の発生過程の解明 などの解明

<将来展望>

本研究の知見を福島における今後の復興・廃炉に活かすこと、感染症拡大時の社会的混乱の解消に結びつけること、また今後起こりうる原子力災害、大規模災害やパンデミックなど予測不能な危機を乗り越えること、これらを実現する社会科学分野にの基盤を創成する。